

平成19年06月21日

〒590-0494

京都大学原子炉実験所
助手・小出裕章様

〒177-0041 4-25

蒼天社政治情報センター
代表・石川鐵也



公開論議における総括Ⅱ

本年6月12日付の「小出論」を拝見し、小出論とは、小出さんによる、小出さん自身のための論議であることを再確認しました。国民のためにはなっていません。

小出さん、真に国の将来、国民の将来を憂えているのであれば、国や事業者が相手にせざるを得ないような文書を作成すべきではありませんか。貴方の身勝手論（原発を止め火力で補う）も所詮は電力頼みに他なりませんね！

小出さん、私が「毎日東京新聞」の記者に語ったわけではありません。愚にも付かぬことは当該新聞社と論じてください（これも小出論です）。

小出さん、では、どうすればいいのか？「結論は明白です」と、さも脱原発の具体策があるかのように格好つけておきながら――

※ これまでのようなエネルギーの浪費をやめ、エネルギーの消費量が少なくても人々が平和で安全に生活できる社会構造を作ることです。

※ そのためには、世界全体の改革が必要であり、困難で気の遠くなるほどの作業が必要です。

※ ただし、何よりもまず必要なことは日本を含めたエネルギー浪費国家が自国でのエネルギー消費量を減らすことです。

※ もちろん、そうするためにはたくさんの困難もあるし、長い時間がかかることも当然です。

――これでは、独りよがりの「夢想論者」と断言されても仕方がないでしょう。この程度のことには、責任を有する人々、その全てが承知していることです。その上で、では、どうすれば？と模索しているのです。

小出さん、総括で述べたことを再度記します。

小出さんが主張する「エネルギー消費自体を抑制できるような社会構造作りの重要性」をも承知しておりますが、日本（先進国）は民主国家であり、国民に対し、抑制社会への移行を強要することはできません。貴方には、そういった民主社会の仕組みが理解できないのでしょうか。

もし、理解できるのであれば、「そうするためにはたくさんの困難もあるし、長い時間がかかることも当然です」などといった抽象論で逃げずに、では、どうすればいいのか？を具体的に語ってください。

小出さん、誰が、どのようにして算出したのか知りませんが、あのようなデータを何度示されようとも、「いかに太陽が巨大なエネルギーを地球に届けてくれても、それを安定供給化できなければ何の意味もなさないでしょう」と答えざるを得ません。絵に描いた餅（コイデ・ータ）では国民の腹を満たせないのです。

私は、国の政策に屈服している訳ではありません（屈服者は国・事業者を批判し提言などしませんよ。最初から熟読し直してくださいね）し、ムーア氏を神格化している訳でもありません。貴方の有する短い物差しで、他人を押し量る無粋さも認識してください。

小出さん、貴方が読者に判断を任せた事実を忘れないでください。故に、私も一つひと

つの事実を読者の判断材料として記しているだけです。価値の有無についても読者が判断すれば良いことです。何度も指摘してますよ。本論の価値についても、貴方の物差しが短すぎて計れないのかも知れませんよ。

小出さん、貴方が原子炉実験所の無責任な助手だからこそ、「一刻も早く原子力を廃絶し、化石燃料の使用も減らしながら（あれ～これまでと論調が変化しましたね）太陽エネルギーの活用の道を築くことが必要なのです」などと簡単に言えるのです。

小出さん、では、そうするための長～い時間、化石燃料を減らし、太陽エネルギーに依存できるまでのその期間（どの程度を予測しているのですか）は一体何に依存すると言うのでしょうか？温暖化対策で火力発電の廃止が叫ばれている現状を考慮すれば、今度は「エネルギー資源の輸出国次第。電力に任せる」と述べますか。それでも、まず電力各社の経営の安定化を図らねばなりませんね。

小出さんはこれまで、反対派の誤りを批判してきましたか。私は、国や事業者の誤りを批判してきましたよ。私が「国や企業の提灯持ち」を努めなければ、暗闇に足を掬われ、その悪影響が国民に跳ね返りますからね。そういった思いで足元を照らしているのです。小出さん自身は「反対派の提灯持ち」をしているようですが、その提灯からは大量の二酸化炭素が放出されていることを自覚してくださいね。

小出さんは気づいてないのかも知れませんが、貴方は自分自身の生活や売名のために活動し、私は、国や事業者が貴方がた反対派や報道機関と真剣に論じ合わないから仕方なく活動しているのです。

小出さん、貴方には理解できないでしょうが、国民のために活動するのであれば、常に解決への道筋をつけねばなりません。

小出さんは、「太陽エネルギーに依拠する以外ありません」と声高に論じながらも、未だに原子力で生活の糧を得ております。心底から「太陽エネルギー」しかないと信じているのであれば、一刻も早く原子力の世界から身を引き、太陽エネルギーの研究に没頭するはずではありませんか。それが論者の道理というものです。

にもかかわらず、「私自身がどの様な研究に自分をかけるかは私が判断すべきことで、石川さんから指図を受けることはありません」（昨年11月7日4頁上部）といった偽論を展開し、本論から逃げています。これでは、「太陽エネルギーの研究では（素人故に）生活できないから原子力にしがみついている」と言われても仕方がありませんね。

小出さん、貴方が口先だけでなく、太陽エネルギーの活用方法を具体化し、それが原子力の利点を上回ると認められれば、是非もなく採用されるまずです。それこそが国民の為になるではありませんか。

小出さん、「私の発言には責任を持つつもりです」と啖呵を切るのであれば、抽象論ではなく具体論で示してください。小出さん、貴方は「高レベル放射性廃棄物は電力各本社の地下に保管すべき」と断言されましたね。この発言が、自己信念に基づくものならば、一体どの様にすればそういった暴論が実現可能となるのか、その具体的な方法を段階的に示してください。私には、夢想家の感情的夢想論に思えてなりません。

小出さん、本論掲載県の文面をまともと感じるのは、貴方が無責任者である証拠です。各県に確認しています。公文書であるが故にあのような表現とならざるを得ないのです。47都道府県が同様の主張をするだけでは、必ずや、子孫に負の遺産となって残るのです。貴方にはそういった道理も理解できないのですか。

小出さん、国の専管事項だからといって、国が勝手に決定し、国が勝手に処分できる訳でもありません。“では、どうすれば解決するとお考えですか？”私たち国民一人ひとりに課された問題でもあるのです。

今回もまた忙しさにまかせ「原子力安全・保安院の分離独立」問題の矛盾点を記すことができずでした。小出さんはこれまで、分離問題、分離後については語っていないのですか。もし、小出さんからの反論や説明等があれば、その段階で掲載したいと思います。
※ 本論提言 原環機構は少数精鋭集団に再編し、自治体の相談を受けやすくするため、各電力施設内に出先事務所を設置すべきである。

以上